

出張報告

報告日 令和7年9月4日

会派名	柏崎の風
報告者氏名	上森 茜・春川 敏浩・柄沢 均・三嶋 崇史
種別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用務	第20回全国市議会議長会研究フォーラム
日時	令和7年8月27日 ~ 令和7年8月28日
場所 （会場）	札幌文化芸術劇場hitaru 北海道札幌市中央区北1条西1丁目札幌市民交流プラザ4F
概要	【第1日】8月27日（水）パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」 ●コーディネーター ■■■■ 近畿大学法学部教授 ・地方議会・議員に対する無関心、もしくは不信が広がる現況 ・地方議員選挙における投票率の低下 ・ここ数回の統一地方選挙では、無投票者や定員割れが顕著に増加 ・議員の多様性や住民代表性の確保：若者や女性、会社員などが立候補しやすい環境の整備 ・議員定数・議員報酬のあり方 ・令和5年地方自治法改正（地方議会の役割及び議員の職務等の明確化） ●パネリスト ○■■■■ 東京大学教授 ・技術革新へのリテラシーが大きな鍵 ・人口減の解決策としてのオンライン議会・自治体DX ・処方箋は都道府県との垂直連携/周辺市町村との水平連携/デジタル化 ○■■■■ 読売新聞東京本社政治部次長 ・有権者が感じる点は議員も痛感 お金がかかりすぎる、報酬が低い、介護育児との両立、多忙な日々、落選の可能性、虚偽情報で非難、ネット時代の選挙 ○山下 節子 山口県宇部市議会議員 ・地方議員には資質・能力・意欲とも高いものが要求される 志の高い優秀な人材が市議会議員になってくれるよう、環境整備を進めていくことが急務

○長内 直也 北海道札幌市議会議員

- ・なり手不足問題対策としての主権者教育

ホームページで議場を見学した小中学生を紹介、教育委員会を通じて夏休みの自由研究に議場見学、札幌市議会の1年間の流れが分かるチラシの作成、札幌市議会「キッズページ」、市議会子ども教室、地域や区役所と連携

【第2日】8月28日(木) 課題討議

「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

●コーディネーター ■■■■ 関東学院大学法学部地域創生学科教授

- ・2023年(令和5年)の統一地方選挙では、投票率の低下や無投票当選者の割合が高まるなど、小規模市議会における議員のなり手不足が深刻化した
- ・若者や女性、会社員など、多様な人材の地方議会への参画を促し、議会を活性化することは、多くの市議会の緊要な課題である
- ・今後は、議会に対する関心を高め、多様な人材の地方議会への参画促進に地方議会がより積極的に取り組む必要がある

●事例報告者

○今井 康善 長野県岡谷市議会前議長

- ・令和5年の市議会議員選挙が全国唯一の「定数割れに」
- ・議会情報のオープン化：マニフェストスイッチ
- ・住民の議会への参加：市議会講座・議場コンサート
- ・議会機能の強化：グループウェアによる通知等のペーパーレス化
- ・議員の「なり手不足」対策：議員定数・議員報酬

○平神 純子 鹿児島県南さつま市議会議員

- ・鹿児島県内の女性議員を100人にする会(1996年立ち上げ)
- ・2025年4月女性議員100人達成はクリアしたが翌月には99人となる
- ・女性議員ゼロ議会6自治体に女性議員を誕生させるのが次なる目標

○中野 進 石川県白山市議会議員

- ・令和3年2月選挙 公示2週間前でも定数より2人少ない出馬表明
→議員のなり手不足が顕在化
- ・未来へつなぐ議員のあり方検証委員会設置(R3/5/17設置)
- ・議員討論会の開催(R3/7開催)
- ・白山市の未来へつなぐシンポジウムの開催(R3/11/21開催)
- ・市民との意見交換会「みんなでギカイを考えるキカイ」の開催(R4/5~11)
- ・市民の多様な意見を市政に反映するため広報広聴委員会を充実(R5/3)
- ・議員立候補環境等の改善のため政治倫理条例の一部改正(R5/3)



所 感 等

【上森 茜】

2日間の研修テーマであった地方議会議員のなり手不足問題について、コーディネーターやパネリストから各議会の取組や自身の活動を伺った。根本的には議員は遠い存在、議会の役割を市民が認識していないのではないかと、また認識してもらうために議会としてどのような発信、活動を行うべきか、という観点から討議がなされた。

教育委員会の協力や行政との連携をした取組で、子どもたちに議会の役割を伝える機会を提供していた札幌市議会の取組は、柏崎市議会でも取り組む魅力があると感じた。

岡谷市議会の取組の一つ、議員のなり手不足に向き合うシンポジウムを議会主催で市民向けに6か所で開催。「その背景には議員のなり手不足は立候補したものだけで解決する問題ではないという想いがあった」との発言があり大いに共感した。立候補のハードルを下げる提言として公費制度の見直しにも触れていた。

柏崎市議会は通年議会導入、ペーパーレス化、議員定数削減など議会改革としては進んでいる方だと認識していたが、市民に議会の役割を認識してもらう、必要だと感じてもらう取組についてはまだできることがあると感じた。

【春川 敏浩】

メインテーマは、地方議員のなり手不足問題解決について2日間に渡り、研究フォーラムを通じて、地方議会・議員に対する住民の無関心さ、不信が広がる現状から投票率の低下や定員割れが生じてくるので、議員のなり手不足を生じでしまうと言うテーマ内容であった。議員サイドを考えると、一般的な体系として、報酬水準が低い・年金がない・住民との距離が近いことためプライベートが確保できない、こうしたことが主な理由とされているが、全国の自治体でも様々な要素があり現状は、千差万別であると推定できる。以上のことから、少しでも問題を解決させようとパネリストによる議会での紹介があった。住民から少しでも議会活動を知ってもらおうと、議会内の情報をオープン化し、また住民が議会に参加してもらうような意見交換会を開催し取り組んでいる様子が紹介されていた。

全体を通じて、柏崎市議会は、議員のなり手がなく、無投票などなく、政策提言も委員会毎に実施しているのでかなり理想的な議会であると感じた。今後は、市民との意見交換会における、地域の各種団体との意見交換会の実施も必要かと感じた。

【柄沢 均】

テーマは議員のなり手不足問題ということであったが、そこから見えてくることは議会議員の資質の向上である。柏崎市議会が通年議会を導入し、また議会基本条例を制定してから10年以上が経つ。その間も議会改革を進め、前進してはいると思う。市議会議員のなり手不足という問題もまだ発生していない。しかしながら改めて他の市議会の取り組みを伺ってみると、まだまだできること、しなければならないことがたくさんあると痛感する。なり手不足問題への対策も必要だろう。白山市議会のように議会議員のあり方について市民と意見交換をすることも大切なことだと思う。逃げてはいられない問題である。その上で、若い世代を筆頭に多様な人材が議会を職業として選んでもらうために、立候補の足かせとなるような制限の緩和や議員報酬などについて検討を重ねなければならない。中高生との対話も必然である。宇部市議会山下議長（全国市議会議長会副会長）からは地方議員の高い資質・能力・意欲、また政策提言能力の向上について何度も話があった。「自治会の延長のような一般質問をしている場合ではない」まさにそのとおりである。

【三嶋 崇史】

地方議会の課題は、議員のなり手不足と投票率の低下が大きな問題となっている。その理由として、家族の理解、選挙資金の負担、休暇取得制度の確立などが挙げられる。議員とは、裁量労働であり、福利厚生なし、原則として諸手当なし、昇給なし、退職金なし。これではなり手がいないとコーディネーターが指摘した。地域性による問題であるために、意見交換会で知り合った沖縄市議会では定数30人に対し40人が立候補している。また、パネリストや実例報告者の発表を傾聴すると各議会の活動が見えて来るが様々な特性があり、柏崎市と比較対象にはならない。しかし、議会や議員の見える化、広報広聴、情報の共有などの政策は課題解決のポイントとである。小学生のなりたい職業に「議員」は60位中58位と低い。議員として活動の持続性、熱量を持って取組で行くと決意を新たに感じている。

出張報告

報告日 令和7年9月4日

会 派 名	柏崎の風
報告者氏名	上森 茜・春川 敏浩・柄沢 均・三嶋 崇史
種 別	☒ 調査研究（ ☒ 行政視察） ☐ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	石狩市「再エネ集積状況と再エネを活用した産業振興」視察
日 時	令和7年8月28日 ～ 令和7年8月28日
場 所 (会場)	石狩商工会館・石狩湾新港湾地域内REゾーン
調査項目等	石狩市では陸上及び海上風力発電によるエネルギー利用を推進しており、国内最大級の大型風車をはじめ、風力発電ゾーニング計画を策定するなど再生可能エネルギーの先進地としての様々な取り組みを視察する。
概 要	■石狩市の概要 【位置と広さ】 札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にあり、江戸時代初期には河口部流域が「場所」（交易を行う範囲）に指定されたことや交通の要所であったことから、西蝦夷地の中心地として重要な役割を果たしてきた。近年は、石狩湾新港をベースにした国際的な文化・経済の拠点として、めざましい発展を遂げている。 【地勢・面積】 総面積は722.33平方キロ。東西に28.88キロ、南北67.04キロに広がっている。西側一帯は石狩湾に接している。 【人口】 56,955人（令和7年7月末日現在） ●挨拶 ○加藤 龍幸 石狩市長 ○加藤 泰博 石狩市議会議長 ●石狩市の再エネ集積状況と再エネを活用した産業振興に関して ○石狩市企画制作部企業連携推進課新産業創出担当課長 ・REゾーン内に新設予定のデータセンター及び周辺の公共施設などに地域の再エネ電力を供給（REゾーン：電力需要の100パーセントを再エネで

供給することを目指す区域)

- ・水素や大型蓄電池、デマンドレスポンス型需要施設など、自然変動型電源の受け入れに向けた地域調整力機能の拡大を推進
- ・公共施設群 5 施設において、太陽光発電設備の設置・自家消費を進め、不足分を石狩湾新港地域から供給するための手法を確立（公共施設群 5 施設：石狩市役所、総合保健福祉センターりんくる、学校給食センター、市民図書館、子供未来館あいぽーと）
- ・地域再エネによるグリーン水素のサプライチェーン構築や木質バイオマス発電所から生じた熱エネルギーの近隣活用
- ・公用車のEV化とカーシェアリングの実施による運輸部門の温室効果ガス削減及び車載蓄電池の防災活用
- ・再エネを活用した新たな公共交通や再エネの広域送電に向けた検討により、地域課題の解決と共に、再エネの地産活用を推進

➤ 石狩湾新港「港湾区域」

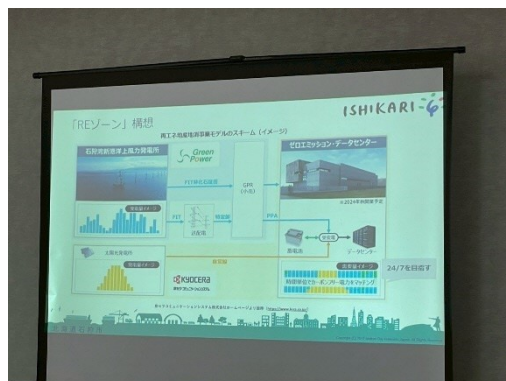
- ・石狩湾新港の沿岸から約 1.6 km 沖合に位置する港湾区域内には、(株)グリーンパワーインベストメントによる国内最大級（出力 11 万 2,000 kW：8,000 kW×14 基）の洋上風力発電所がある

➤ 石狩市沖「一般海域」

- ・石狩市沖の「一般海域」では 10 社以上が事業に向けた手続きに着手するなど、将来的に大規模な洋上風力発電所の開発が見込まれている。
- ・想定設置基数：76～91 基
- ・想定発電容量：91 万 kW～114 万 kW

●石狩湾新港湾地域内REゾーン視察

- ① 石狩湾新港西ふ頭（洋上風力発電見学）
- ② 洋上風力用大型蓄電池（車窓見学）
- ③ データセンター群（車窓見学）



所 感 等

【上森 茜】

石狩市は札幌市から車で約30分の所に位置し、札幌のベッドタウンでもある。今回は石狩市の再エネ集積状況及び再エネを活かした産業振興を視察した。陸上及び海上風力発電によるエネルギー利用を推進しており、国内最大級の大型風車をはじめ、風力発電ゾーニング計画を策定、REゾーンを整備し電力を多く使うデータセンターなどをターゲットに市企業誘致を進め、再エネの地産地活を推進し先進的なGXの推進地域を目指している。脱炭素地域の実現＝産業の成長・発展をコンセプトに再エネを生かした街づくりをしていた。

洋上風力発電による石狩市の変化として、建設関連の作業員の往来、視察者は令和6年度100件1,200人、東京都立杉並工科高等学校による教育旅行など交流人口の増加のほか地域企業の振興、ホテル建設などがあげられていた。

印象に残ったことは、風力発電を利用して地域価値を創造しその価値を市民に提供すること、行政だけではできない市民の理解も必要だとして町内会や経済界、教育、福祉の団体の代表によるワークショップを開催していること、現在の石狩市で進んでいる方向性を子どもたちに知ってもらうためにクイズや風で電気を作る体験を中心としたイベントを行っていることなどである。地域で作られたエネルギーを地域で使い、産業も発展する理想的な取り組みだと感じた。

【春川 敏浩】

石狩市の再エネ集積状況と再エネを活用した産業振興に関して、石狩市は札幌中心部から約15キロ圏内と言うこともあり地価も手ごろで、住宅地として人気があり、再生エネルギーを活用した持続可能なまちづくりを目指している。国内最大級の風力発電を手掛け、洋上風力発電が開始された取組を伺う。地域企業の活性化にも大きく貢献し得るので今後さらに大きな期待がもてると感じた。

そして、印象的であったのが、工業団地内は住宅地として実在しなく、区分地域内での住宅地として存在している。洋上風力発電などを契機に、石狩市では、交流人口の増加やビジネスホテルの建設に伴い、まちの賑わいが創出されているとありがたい話を伺う。地域産業の活性化に伴い、まちが潤うことは住民にとっても大変喜ばしい現実である。

【柄沢 均】

石狩湾新港湾では風力発電をはじめ再生可能エネルギーやそのエネルギーを100%使うことを目指すREゾーンの整備が国と共に進められており、さらに石狩沖では原子力発電所1基分に相当する最大114万kWにもなる洋上風力の計画も進められている。「地産地活」をテーマにデータセンターの誘致や近隣の札幌市への供給が計画され、またそのデータセンターを活用して多様化する地域課題の解決にも発想が及んでいる。そこにはメーカーや不動産などの大手企業が進出しGXの推進地域の先導役となっている。本市においても原子力を軸に太陽光、風力そして水素などの事業がエネルギーのまちとして進められており、参考になる要素が多くある。安価な電気料金の提供はデータセンターや電力を多く使う企業の誘致には、大きなアドバンテージ

となるのではないかと。積極的なアプローチも必要である。

さて、北海道日本海側の洋上風力発電を考えると、海底直流ケーブルによる柏崎での引き上げである。石狩沖で進められている洋上風力による電力は、地産活用という理念の下では送電は期待が少なく感じた。資材高騰による大手商社やスーパーゼネコンの撤退など不安要素も多くある。北海道でのその他4カ所（岩宇・南後志地区沖、島牧沖、檜山沖、松前沖）における洋上風力の計画、進行状況も確認したい。

【三嶋 崇史】

石狩市にある石狩湾新港「湾港区域」には、国内最大級の洋上風力発電所がある。札幌市から車で30分の場所に位置し、日本海に面した港が整備され、2050年までにゼロカーボンシティを目指して再生可能エネルギーの風力、バイオマス、太陽光に力を入れている。この他にも、天然ガス輸入基地の運転が開始され、石油製品・LPGなどを含めたエネルギーの総合供給拠点として重要な物流機能も担っている。

今から50年以上前の地域開発基本計画から、社会情勢の変化に伴い、湾港整備を進め再生可能エネルギーの集積、物流、地域産業に取り組んでいる。洋上風力を地域産業に位置づけ、秋田県との共同研究会を設立し、再エネを活用したまちづくり、人材育成を進めて、令和6年度には100件1,200人の視察が訪れている。

都市開発には、社会情勢の変化が大きく影響し時間をかけて形成される。未来への投資、開発の見極めが重要で、環境と経済の関係性を強く考えさせられた良い学びであった。